

「熊本地震」や「知事の現地視察」を踏まえて実施した新しい訓練等の概要

1 家屋倒壊を想定した屋内退避

新しい訓練



熊本地震を踏まえ、地震による家屋の倒壊などで屋内退避が困難となった場合を想定し、自宅から近くの避難所などへ移動し、屋内退避する訓練を行いました。

◀ 亀山地区コミュニティセンター(薩摩川内市)

2 倒木を想定した道路啓開

新しい訓練



倒木等で避難経路が通行不能となったことを想定し、陸上自衛隊による道路の復旧作業訓練を行いました。重機で木材を撤去した後に、福祉車両が出発しました。

◀ 寄田浜駐車場(薩摩川内市)

3 オフサイトセンターへの参集・運営

国、県、関係市町、事業者が連携して原子力災害に対応するための現地災害対策本部を、オフサイトセンターに設置。テレビ会議システムを活用し、関係機関内での情報共有や必要な措置・支援を要請する訓練を行いました。



◀ オフサイトセンター(薩摩川内市)

4 原子力防災・避難施設等調整システムの活用



空間放射線量率の状況によって、あらかじめ設定していた避難所が使用できなくなった場合に調整を行う「原子力防災・避難施設等調整システム」を活用し、代替りの避難先を迅速に調整して受け入れ要請をする訓練を行いました。

◀ システムによる調整状況(鹿児島市)

5 緊急時モニタリングの実施

可搬型モニタリングポストや、モニタリングカーなどを使い、空間放射線量率の測定を実施しました。緊急時モニタリングセンター(EMC)では、モニタリング結果の取りまとめを行いました。



◀ 亀山地区コミュニティセンター(薩摩川内市)

原子力防災訓練の実施場所



8 山間部の住民(高齢者等)への避難支援

新しい訓練

PAZ圏内の山間部に住む高齢者等の避難を支援する訓練を実施。九州電力の福祉車両と社員が自宅近くまで向かい、指定された避難所へ搬送しました。



◀ 寄田地区コミュニティセンター(薩摩川内市)

9 被ばく傷病者の対応

新しい訓練

済生会川内病院では、長崎大学と連携して被ばくした傷病者の受け入れ訓練を実施。全身の放射線量を測定し、傷口を繰り返し洗い流すなどの除染や治療を行いました。



◀ 済生会川内病院(薩摩川内市)

10 避難退域時検査



UPZ圏内の方々が避難所へ向かう途中に避難退域時検査場所を開設。避難車両や搭乗者の放射性物質の汚染検査を行い、汚染がある場合には、除染を行いました。また、避難者に対し、安定ヨウ素剤に関する必要な情報提供と安定ヨウ素剤の配布訓練を行いました。

◀ 伊集院総合運動公園(日置市)

11 集合場所・避難所の初動対応

新しい訓練

避難元市町と避難先市町との、発災から受け入れ決定、避難所開設などの初動対応の訓練を実施。さらに、避難所へ備蓄物資を搬送する訓練なども行いました。



◀ 搬送された物資(鹿児島市)

12 放射線防護施設の運営

新しい訓練



羽島交流センターなどでは、可動式防護壁の使用実習訓練等を実施。警報とともに集まった職員たちが室内に備え付けられている防護壁を設置し、避難する住民の受け入れに備えました。

◀ 羽島交流センター(いちき串木野市)

6 関係機関と連携した避難誘導



警察、消防、自衛隊、海上保安庁などが連携し、要支援者の避難や、住民の一時移転をサポートする訓練を実施。さらに、孤立した住民をヘリコプターで搬送する訓練や、周辺海域の船舶・漁船に注意喚起する訓練も行いました。

◀ 消防による避難支援(薩摩川内市)

7 代替経路での避難

新しい訓練

航空機で道路の被災状況を上空から確認し、代替経路で避難する訓練を行いました。(国道504号線,328号線から国道3号線へ変更)